

○ 中学校社会 第3学年 ④

「人権尊重と日本国憲法」

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領との関連	評価の観点		
			関意	思判表	知技理
(1)	立ち退くべきであるという主張について、資料1で示されている状況を「効率」の視点から分析し、それを根拠として主張を構成し、論述する問題である。	内容(3)ーアのうち、基本的人権の尊重に関する内容を中心とした活用問題である。 授業で学んだことを、日常の具体的な事例を通して考えさせながら、現代社会をとらえる見方や考え方の理解の深化を図ることをねらいとしている。	◎	○	
(2)	立ち退かなくて良いという主張について、既習の知識をふまえながら、資料ア～エのうちから最も適するものを2つ選択した上で、「公正」の視点から主張を構成し、資料情報を根拠に論述する問題である。	問題を解く際には、既習事項である「対立と合意、効率と公正」をもとにして、公共の福祉による人権の制限に関する資料を活用していくことが大切である。	◎	○	○
(3)	既習事項である「公共の福祉」を根底にしながら、「効率」と「公正」の視点から合意が形成されていく過程を、理論的に論述する問題である。		◎	○	○